

詩編 23 篇

主は私の羊飼い

23:1 【主】は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません。

23:2 主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。

23:3 主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。

23:4 たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわいを恐れませんが、あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。

23:5 私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、私の頭に油をそそいでくださいます。私の杯は、あふれています。

23:6 まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう。私は、いつまでも、【主】の家に住まいましょう。

はじめに

この詩編は世界中で最も愛されている詩編なので、これに基づいて沢山の讃美歌や色々な歌も書かれています。2週間前に詩編 121 編から話した“全能の神はいつも私達の味方”と言うテーマと重なる部分もありますが、今の恐れや不安に満ちた時代の中で最も根本的な真実を繰り返して聞いて忘れないようにするのが大切です。

1節.特権…「主は私の羊飼い」

この詩編は元羊飼いによって書かれました。イスラエルの2代目の王、ダビデは羊飼いから王になりましたが、王であるそのことよりも神様と個人的な親しい関係を持つ方がもっと素晴らしい特権だと言っています。

今、イエス様を受け入れる全ての信者にその最高の特権が与えられています。

ヨハネ10:2-4「しかし、門からはいる者は、その羊の牧者です。3 門番は彼のために開き、羊はその声を聞き分けず。彼は自分の羊をその名で呼んで連れ出します。4 彼は、自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っているから、彼について行きます。」

この10章の続きを読みますと、ここはイエス様は自分が羊の為に命を捧げる良い羊飼いだと言っている箇所です。2-4節では、一人一人を名前と呼んで、個人的にその声を聞き分ける事が出来るような親しい関係の中で導いて下さると言っておられます。

一人一人が彼の声を知っているから、その声を聞きながら付いて行きます。イエス様は自分の信者の一人一人の為にこの詩編に書かれている真実を全て完全に実現させて下さるので、これより素晴らしい特権はありません。この意味は、主イエスが一人一人の為に最後まで全面的に責任を取って下さっているということです。

1節b-2節. 主イエスの備え

23:1-2「主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません。2主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。」

イエス様は唯一、私達の全ての必要を満たせる救い主です。緑の牧場にふさせるという部分には、物質的な必要を満たすと同時に心の奥底の必要も満たす意味も含まれています。と言うのも羊は怖がりな動物なので、完全に安心していなければ伏せる事はしないからです。憩いの水のほとりに伴われますと言う表現もそれを表しています。私達人間は心や魂の霊的な必要が満たされない限り、この世の物で心の必要を満たそうとして完全な安らぎを体験出来ません。

ヨハネ4:13-14「イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでも、また渇きます。14しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」
永遠の命は天国で与えられるいつまでも続く命と言う意味だけではなくて、今、心を完全に満たして完全な安らぎを与える命でもあります。イエス様は自分がよい羊飼いだと言う10章の箇所でも、こう表現しました。

ヨハネ10:10「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」
命を豊かに持つ為に、お金で買えない、薬でも得られないような、全ての必要が満たされている完全な安らぎを与えられる特権です。

3節. 主イエスの力

23:3「主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。」
イエス様の力は既に私達の最後の敵である死に打ち勝った復活の力です。自分の信者の一人一人に今、聖い御霊によって心の中にその力を与えられています。

エペソ人2:5-6「罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、――あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。6キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました」。

自分の罪の為に霊的に死んでいた私達の魂が、罪の完全な赦しによって、復活の命の力で生き返らせられます。それだけではなく、イエス様は共によみがえらせて共に天の所に座らせて下さっているのです。これは明確に過去形で書いてありますから、天国に行った時の将来のことではなくて既に実現して下さっているということです。神の全能の力を持って義の道に導いてくださるので、どんな時でも、正しい道を歩む為に前進出来るように道を開いてくださいます。行き止まりや行詰まるのが不可能な人生を与えられている素晴らしい特権です。

ローマ10:11「聖書はこう言っています。「彼に信頼する者は、失望させられることがない。」この手前の9-10節には、イエスを口で主として告白して心に信じている人はこの復活の力を体験すると書いてあります。ですから、失望させられる事はないと言う事です。黙っていて信仰を隠すクリスチャンはこの復活の力を体験しません。

4節. 主イエスのご臨在と平安

23:4「たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわざを恐れませんが、あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。」

どんなに恐ろしい事があっても、主が共にいる確信があれば恐れる事がなく平安の中で過ごす事が出来ます。問題はどのようにして主がいつも共にいる事を知る事が出来るのでしょうか？目に見える物によって知る事が出来ず、「目に見える物によって歩むのではなくて信仰によって歩む。」というのが聖書の教えですから、主の約束を知って信じる事が必要です。

ヘブル人13:5b-6。「主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」

6そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。「主は私の助け手です。私は恐れませんが、人間が、私に対して何ができましょう。」

嘘をつく事が不可能な主ご自身が言ったのですから、ただの人間の約束とは違います。しかも、それを強い言葉で更に強調しています。「私は決してあなたを離れない、また、あなたを捨てない。」決してと言う言葉を忘れないように気を付けて下さい。6節に「そこで、私達は確信に満ちてこう言います。「主が私の助け手です。私は恐れませんが、人間が、私に何が出来ましょう。」とあります。よい羊飼いの話のところを見てください。

ヨハネ10:12-13「牧者でなく、また、羊の所有者でない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして、逃げて行きます。それで、狼は羊を奪い、また散らすのです。13それは、彼が雇い人であって、羊のことを心にかけていないからです。」

つまり、私は絶対にあなたを置き去りにしないと強調しておられるのです。この約束は無条件的なので、あなたが信者として頑張っているかどうかは関係なく迷い出ても同じです。

テモテ第二 2:13. 「私たちは真実でなくても、彼は常に真実である。彼にはご自身を否むことができないからである。」

詩編23:4に面白い言葉が書いてあります。

23:4 「あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。」

むちと杖と言われたら、慰めより痛みを思い浮かびます。でも、私達が迷い出たまま自分から悔い改めて戻ろうとしなければ、イエス様は私たちが自分を駄目にしてしまう罪の中にいることを放っておく事をしないで、愛のむちと杖を使って正しい道に戻して下さるのです。その経験によって逆により深く主の真実な愛を知って強い確信を持つようになります。それによってむちと杖は逆に慰めになるのです。責任を持って守って下さる素晴らしい特権です。

5節. 主の守り

23:5 「私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、私の頭に油をそそいでくださいます。

私の杯は、あふれています。」

これは完全な守りの中で余裕を持っている事を現しています。誤解しないようにしなければならないのは、聖書は敵がいなくなるような守りを約束していません。逆に、どれ程敵に囲まれても、圧倒的な勝利を与えられます。

ローマ8:37. 「しかし、私たちは、私たちが愛して下さった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。」

何とかぎりぎり勝利をするという話しではなくて、余裕を持って打ち勝つことになることと保証しています。ある意味でイエス様を信じて受け入れる事は、自分を無防備な立場に入れる事になります。つまり、自分の方法で自分の力で人と争って自分を守るのではなくて、イエス様に従って全てを正しく裁かれる父なる神様にその権利を委ねるように導かれます。未信者にとってはそれが考えられない事なので、未信者の目から見ると愚かな事です。しかし、信仰によって全てを神様に明け渡す人は最終的に損することも、負ける事も不可能な人生を与えられます。最強の味方が勝利を保証して下さっています。

ローマ8:31 「では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。」

敵対しようとする人がいくらでも現れますが、彼らは100%の確率で負けてしまうから、敵対出来ないという事が強調されています。38-39節は中々言葉で言い表せない程の確信で満たされています。

ローマ8:38-9 「私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、39 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちが引き離すことはできません。」

いつも、何があっても、最強の味方が共にいてくださるのが凄い特権です。

6節. 主の約束

23:6 「まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう。私は、いつまでも、主の家に住みましょう。」

この約束は一時的ではなくて明らかに永遠の約束です。

私達の母国北アイルランドでは、いつでもどこでも、羊の牧場を見る事が出来ます。そこの羊飼いはよく、牧羊犬を使っています。羊飼いは、この詩編の6節を読む時に、慈しみと恵みの部分を読むと2匹の牧羊犬を想像すると言います。それは、牧羊犬がいつでも、どこでも追って来るからです。良い羊飼いであるイエス様の2匹の牧羊犬と思ったら、覚えやすいです。

ヘブル人の手紙4:16. 「ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」

イエス様を救い主として受け入れているすべての信者はいつでも、どこでも、神様の恵みの王座の前に出てイエス様の名前で祈る事が出来ることも、何とも言えない素晴らしい特権です。イエス様は十字架の上で死んで下さるまでは、大祭司である一人の人だけ一年に回だけ神様の聖所に入る事が許されていた事を考えたら、これも何とも言えない素晴らしい特権だと分かります。

まとめ。

もちろん、この地上で神様の子どもとしてこれだけ沢山の素晴らしい特権を与えられても、それは天国に行くための予告だけです。「私は、いつまでも主の家に住まひましよう。」

イエス様の一番確信に溢れている約束は良い羊飼いの例え話の箇所に書いてあります。

ヨハネ**10:27-30**「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。

29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。**30** わたしと父とは一つです。」

これ以上にはっきりした約束は出来ません。全能の力を持っておられる父と自分の命まで捧げたイエス様は全く一致して永遠の命を保証して下さっています。

ヨハネ**14:3**「わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのものと迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。」